



東海第二原発
再稼働ではなく廃炉への準備を

日本共産党 川崎 篤子 議員

議員 全国の原子力発電所の過半数のプールは、あと8年で、多量のプルトニウムを含む核のゴミで満杯になるのは資源エネルギー庁の資料で明らかです。

日本原電東海第二原発の使用済み核燃料の貯蔵能力は何トンか。

現在何トン保管されているのか。あと何年でプールが満杯になるのか。

経済環境部長 貯蔵容量は約570トン。現在保管量は約380トン。約70トンのドライキヤスクを増設するため満杯になるのはあと6年です。

議員 国内原発の使用済み核燃料貯蔵量は、1万4200トン。青森県六ヶ所再処理工場の未処理の使用済み核燃料は2859トン。再処理工場は、トラブル続きで稼働のめどは立たず、直接処分もできない。

原発での貯蔵も限界にきている。もはや四面楚歌の状況。「これでも原発を続けるのか」の声がある。原電は再稼働ではなく廃炉への準備を行う必要があるのではないか。

村長 4月枝野経済産業大臣に脱原発として、東海第二原発の再



緑豊かな田園の先に原発

稼働中止、廃炉を申し上げた。理由は、原発立地に適切か。日本は地震列島。東海原発は、人口過密地帯に存在する。避難計画が立てられない。20、30キロ圏内では、人口が極めて突出、不適切である。政府は、いまだ新しい原子力政策を打ち立てられない。

東海第二原発は、再稼働を諦めて廃炉にすることが筋だと思ふ。



東海村における防災・減災のための政策を問う

公明党 植木 伸寿 議員

議員 村としての防災や減災の取り組み、そして問題点を明らかにしたい。私達はこの4月、防災セミナーを村内で開催、震災による被災状況を踏まえ今後の対策について学び合った。その防災セミナーで出てきた意見に、豊岡亀下地域への津波に対し、どう手を打つか。特に、豊岡第一水門に対する遠隔操作の工事等対策について本村の考えを伺う。

建設水道部長 村で管理する久慈川の水門は、4か所である。点検や洪水時の操作は水門近くに住む住民7人にお

願っている。豊岡第一水門の操作は、操作員2人とみちづくり課が、現地で国土交通省から指導を受けた。なお、消防署とも連携し大津波等の際には避難を優先し水門に近寄らない事とした。遠隔操作の工事については引き続き国交省に要望する。

議員 震災後 防災について学校教育において最優先としているものは何か、具体的取り組み等、伺う。

教育長 今回の震災を踏まえ、さまざまな状況を想定し訓練を行っている。最も優先して



いる事は、「自分の命は自分で守る」との意識を子供自身に、しっかり持たせる事。釜石の防災教育に携わった群馬大学の片田敏孝教授の講演内容も参考にしながら地域と一体となった防災教育や訓練のあり方を考えていく。

議員 現在の子供達が、災害に強く、防災に対する意識の高い社会を築いていく事を祈っている。